

結婚をきっかけに桑折町へ
松浦 大己さん、莉奈さん（桑島西）

居心地の良さと 人の温かさに惹かれて



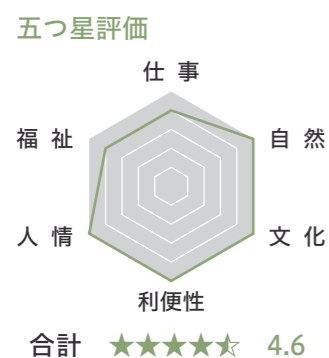
国見町出身の大己さんと福島市出身の莉奈さんは、「結婚したら、互いの実家の中間地点に住もう」と決めていました。いくつか物件を見て回る中で、家賃が比較的安く、人や車通りが少ない、閑静な雰囲気の桑折町が候補に挙がりました。「実は、以前桑折町に勤めていたことがありまして。町の皆さんが優しい人ばかりで、居心地が良いなと感じていました」と莉奈さん。



二人の散歩コースである桑折駅前広場。イチヨウ並木や花壇の草花に癒されています

大己さんも「互いの職場まで車で10分と通いやすく、立地の良さにも惹かれました」と満場一致で、桑折町へ引っ越すことにしました。婚姻届を提出しに役場へ行った際、家賃支援制度について知った二人。「地元にも似たような支援制度がありました。でも、二人とも正社員なので、収入条件に当てはまらなくて。まさか自分たちももらえるなんて思わなかった

ので、とてもありがたく感じています」。こおり暮らしを始めて、半年。平日の夜や休日は、夫婦で時間を合わせて、町探索を兼ねた散歩を楽しんでいます。「全く知らない人もあissaつしてくれて、温かい町だなと感じます。今は散歩中に見つけた菓子店に行くのが日課で、二人でよくスイーツを買って食べています」。来春出産を控える莉奈さん



information

平成30年度に立ち上げた「新婚世帯家賃支援」（詳しくは7ページに掲載）。昨年度は年間16組、今年10月1日時点で、すでに12組の皆さんが利用しています。

は「まだ近くにママ友がいないので、妊婦訪問などで助産師さんに出産や育児について相談できる機会があつて助かりました。来年は家族3人で散歩したり、自然いっぱい公園で遊んだりするのが楽しみです」と目を輝かせました。

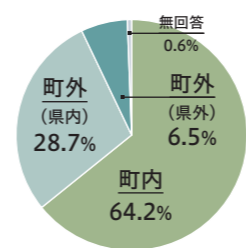
生まれ育った
大好きな桑折町で
子育てしています——



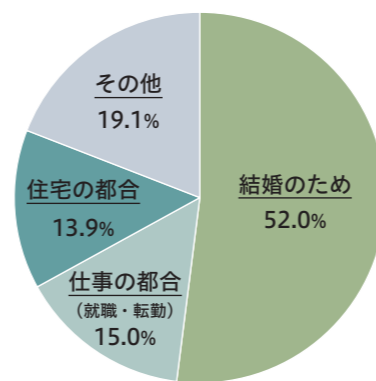
わたしの生き方・働き方 このまちを選ぶ理由

今回の特集では、さまざまな思いを胸に、桑折町で暮らすことを選んだ7人の若者を紹介します。この機会に、こおり暮らしの魅力を考えてみませんか。

あなたの出身地は？

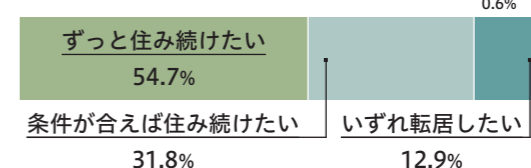


転入のきっかけは？



令和の時代になり、仕事観や結婚観、人生観が大きく変わろうとしています。どのような人生にしたいか、どこに住みたいか……。幸せの定義は、人それぞれです。私たちの未来は、さまざまな選択肢であふれています。町では、総合計画に基づき、若者がこの町に住みたい、住み続けたいと思える環境づくりを進めています。令和元年に実施した町民アンケート調査によると、今や町民の4割が、町外出身者。「結婚」や「仕事の都合」、「住宅の都合」を理由に、転入している人が多く見られます。あらゆる選択肢がある中、このまちを人生のステージに選んだ皆さんは、何を思い、

このまま町に住み続けたい？



居住意向については、「ずっと住み続けたい」が54.7%と最も多く、「条件が合えば住み続けたい」と回答した人と合わせると、8割以上の方が桑折町に定住したいと考えています。

考えたのか……。こおり暮らしを楽しむ7人の皆さんに、「このまちを選ぶ理由」を聞きました。